

第12回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和5年7月18日（火）

18時～19時30分

会場：須坂市生涯学習センター 3階 ホール

<次第>

1 開 会

2 挨拶

3 新構成員、新事務局員自己紹介

4 会議事項

(1) 「第11回須坂新校再編実施計画懇話会」のまとめ

(2) 再編実施基本計画の報告と今後の予定

(3) 講演「コミュニティデザインハイスクールで何ができるか」

講師 一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム

開発研究員 岡崎 エミ 先生

(4) 質疑応答

5 その他

<次回の予定>

(1) 第13回須坂新校再編実施計画懇話会

(日時) 令和5年10月を予定

(会場) 須坂市生涯学習センターを予定

(内容) 施設整備（NSDプロジェクト）についての説明

統合方法についての意見交換

6 閉 会

須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○は新構成員

区分	氏名	所属等
1	三木 正夫	須坂市 市長
2	新井 隆司	小布施町 副町長
3	藤沢 敏和	高山村 副村長
4	小林 雅彦	須坂市教育委員会 教育長 (座長)
5	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6	神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7	久保 正直	アスザック株式会社 代表取締役社長
8	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9	霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	○ 米山 宏貴	須坂東高等学校PTA 会長
12	柴田 弘彦	須坂創成高等学校PTA 会長
13	赤城 千恵美	上高井郡市PTA連合会 副会長
14	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)
15	富沢 孝	上高井校長会 代表 (仁礼小)
16	尾島 信久	長野地域振興局長
17	二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18	大宮 透	元 慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター主任研究員
19	堀内 煌大	須坂東高等学校生徒会 会長
20	関 怜士	須坂東高等学校生徒会 副会長
21	山口 隼	須坂創成高等学校生徒会 会長
22	木村 友香	須坂創成高等学校生徒会 副会長
23	山田 純子	須坂東高等学校長
24	山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
25	羽山 功	須坂創成高等学校長
26	市村 宣幸	須坂創成高等学校 教諭

事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
宮下 由夫	教頭・副事務局長	宮川 敏晃	教頭・事務局長	○ 柳澤 弘蔵	主幹指導主事
嶋田 順一		市村 宣幸		有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
酒井 健次		柳澤 亘		○ 井出 敦	主任指導主事 (須坂新校副担当)
山岸 暢		春原 真			
高坂 亨		河野 健一			

第 11 回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和 5 年 4 月 27 日 (木) 18 時 00 分～19 時 30 分		
場所	須坂市シルキービル 3 階 第 1 ホール		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 藤沢 敏和, 小林 雅彦, 春原 博, 神戸 佳代, 久保 正直, 半田 志郎, 霜田 剛, 柴田 弘彦, 赤城 千恵美, 坪井 扶司夫, 冨沢 孝, 尾島 信久, 二ノ宮 邦彦, 大宮 透, 堀内 煌大, 関 怜士, 山口 隼, 木村 友香, 山田 純子, 山岸 暢, 羽山 功, 市村 宣幸 (以上 24 名)		
欠席 (敬称略)	浅井 洋子, 坪井 育美	傍聴者	5 名
事務局	須坂東高校	宮下 教頭 (副事務局長), 嶋田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	宮川 教頭 (事務局長), 市村 教諭, 柳澤 教諭, 春原 教諭, 河野 教諭	
	県教育委員会	宮澤 高校再編推進室長, 堀田企画幹兼課長補佐, 原 主任指導主事, 有坂 主任指導主事	
当日資料	次第, 第 10 回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ (案), 学びのイメージ (懇話会まとめ), 佐久新校 (仮称) 再編実施基本計画, 須坂新校の学校像 (案), 旧第 2 通学区の中学校卒業予定者数の推移と予測, 校地検討会議からの報告		

会議事項

- (1) 第 10 回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ (案)
- (2) 校地検討会議からの報告
- (3) 再編実施基本計画に係る意見交換 (学校像、設置課程・学科、活用する校地・校舎、募集開始年度、想定する募集学級数)

構成員から出された主な意見(要旨) (⇒県教委回答)

<校地検討会議からの報告>

○学びのイメージを実現するために須坂創成高校の校地を活用することを報告 →構成員了承

<再編実施基本計画に係る意見交換>

○高校は生徒の学習拠点であることが第一。コミュニティデザインハイスクールだと、地域づくりをする学校というイメージが先行してしまうのではないか。

⇒地域を題材にして生徒が学び、学んだ成果を地域に提言するという事で、未来ある高校生が地域社会の中に参画する学校を表すためにコミュニティデザインハイスクールという言葉を用いた。

○この「コミュニティデザインハイスクール」は須高地区にあっている。

○部活動や文化祭や生徒会活動など、いわゆる高校の文化を生徒たちが創造していくという文言も欲しい。

○令和 11 年度開校ということだが、令和 8 年度の募集 (現中学校 1 年生) はあるのか。須坂東高校の令和 8 年度から 10 年度の入学生はどのような状況で過ごすのか。

⇒新校が開校する前年度まで両校それぞれで生徒募集を行う。統合方法は年次統合、一斉統合があるが、これについては今後意見交換をお願いしたい。

<その他>

○地域住民への広報の仕方について、どのように考えているか

⇒市町村の広報誌に掲載をお願いしたい。また新校に入学する小学生や保護者向けの説明を考えている

その他

【次回】

日時：令和 5 年 7 月の実施を予定

須坂新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

須坂東高等学校、須坂創成高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 11 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 11 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

須坂創成高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、専門科と新たな普通科（仮称：みらいデザイン科）の連携を実現していくために、須坂創成高等学校の施設・設備を活用する。

部活動など生徒の自主的活動のため、引き続き旧須坂商業高等学校のグラウンドや体育館等の施設を活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 農業科・工業科・商業科・みらいデザイン科（仮称）

4 学科あわせて 7 学級程度を想定

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

みらいデザイン科（仮称）は、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により設置可能となった「新たな普通科」の 1 つである、地域社会に関する学科[※]として設置する。また単位制を導入し、他学科の授業も選択できる、個別最適な学びにふさわしい教育課程を編成する。

北信地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7 学級程度が想定される。

注）現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために現在および将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。

5 学びのイメージ

別紙のとおり

地域をフィールドとした探究を学びの中心に据え、「実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校」を構想する。

6 施設整備

新校の学びに必要な施設及び、地域連携の実現のため必要な機能の整備を図る。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

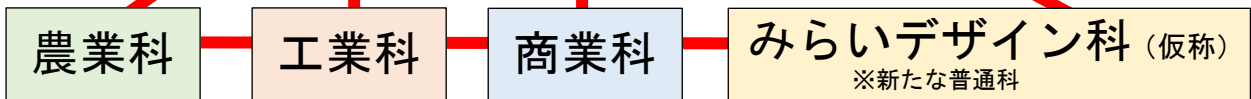
生徒像
育てたい

- 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者とながら、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

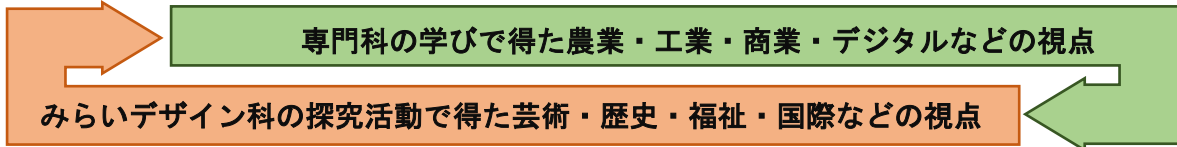
学校像
目指す

- 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む
- 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む
- 地域とともに学び、主体的に地域の未来を創造する力を育む

地域の未来を、地域の方々と共に創る
コミュニティデザインハイスクール



4 学科の連携で地域の未来づくりに参画



学びの柱

- ◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用

具体的な取組

- 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 生徒自らが学校を創造していく自主的活動（生徒会活動と部活動）
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

単位制

連携

学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化
学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に
コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携
地域を学ぶ国内外の高校生と交流

地域の方々との共同研究

須高地域共学共創コンソーシアム

新校が生涯学習の拠点

大学・専門学校

医療・福祉機関

地元企業・商工会

自治体

研究機関



講演メモ

テーマ 「コミュニティデザインハイスクールで何ができるか」

講師 (一財)地域・教育魅力化プラットフォーム 研究開発員 岡崎 エミ 先生

1 コミュニティデザインとは何か？

2 コミュニティデザイン学科でやったこと

3 SCHシンポジウムとは何か？

4 SCHシンポジウムが小規模校サミットに

5 小国高校の失敗

6 高校を核にした地方創生は可能か？